

町と機構が連携してリースハウス用農地を確保 ～県外出身の新規就農者を手厚く支援～

地域の状況

島根県中部に位置し、総面積の8割を森林が占める邑南町では、農業の収益性向上や担い手確保を図ることが課題だった。同町では中山間地域という地形を活かした新規就農者向けの研修を実施し、初めの一步から幅広く農業を学べる環境を整えている。

邑南町の取組



【令和2年度のおーなんアグサポ隊】



【研修ハウス】

- ・邑南町では、平成12年度から担い手確保のため新規就農者育成の取組を開始し、研修中の生活や経営をサポートする仕組みとなるよう段階的に整備。新規就農者の定住にも重点をおき、地域おこし協力隊「おーなんアグサポ隊」として活動する研修生を募集。令和2年度からは野菜・花に加えてぶどうの専門研修を盛り込んでおり、ぶどうの産地化も目指すリニューアル版となっている。
- ・研修1年目は、他県から移住した研修生が多くの栽培農家とつながりを持って地元へ溶け込んでもらえるよう、野菜・花・ぶどうなど複数品目を学べる内容となっている。2年目以降は、専門コース（野菜・花又はぶどう）を選択。就農支援アドバイザー（町）等の指導を受けながら、研修ハウス等で自営に向けた技術が習得できる。
- ・ぶどうコースの場合は、就農時に、収穫が出来る状態の研修ハウスを農地とともにリースできる仕組みとなっている（国の産地生産基盤パワーアップ事業を活用したリースハウス事業）。
- ・研修終了後は、県の定住定着助成（半農半X支援事業）や国の農業次世代人材投資事業等により就農者の暮らしを継続サポート。また、田舎暮らしでも安定した生活基盤が得られるよう、農業収入だけに頼らない働き方を推進している。

研修実績（令和2年度版～）

・令和2年度：5名 ・令和3年度（募集中）：4名※聞き取り時点

町と農地バンクの連携取組

- ・町及び農業委員会の担当者は、日頃の農家訪問等により、ハウス建設が可能な農地情報を地図に整理。地主が貸し付けを承諾した後、農地バンクとの契約手続きがスムーズに移行できるよう 農地情報を農地バンクの農地集積相談員（以下「機構担当者」）へタイムリーに共有。現地確認なども機構担当者とともに実施。
- ・機構担当者は、町及び農業委員会の担当者とのチームワークのなかで効率よく契約手続きを進めるなど新規就農者向け農地を順調に確保。

研修生の声

「一人親だが、邑南町は仕事と子育ての両立にとっても理解があり手厚く支えてもらいながら農業を学ぶことができるのでありがたい。」（福岡県出身）
「1ターンUターン向け就農フェアに出席し各地の研修圃場を訪問したが、邑南町のぶどうのリースハウス制度は新しい取組だと思い受講をきめた。」（広島県出身）
「研修終了後に支援が打ち切られると自立就農は難しいと思っていたが、邑南町では就農後も2年間支援があるので安心して応募した。」（大阪府出身）
「複数の栽培品目が学べるので就農後はぶどうと野菜の組み合わせにより高収益を目指したい。」（兵庫県出身）

耕作放棄地からワインの聖地に ～農地バンクを活用しワイン産地へ～

地域の状況

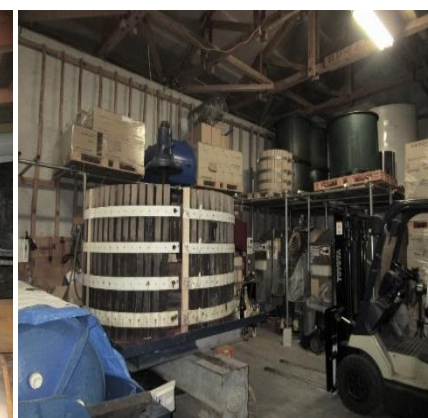
中国山地と瀬戸内海に挟まれた岡山市北区富吉地区は、地中海性気候に近い晴天率の高い気候と水はけの良い花崗岩土壌のため、古くからブドウ栽培地として栄えた歴史をもつが、近年の少子高齢化に伴う担い手不足により、遊休化した園地の対応に苦慮していた。

ラ・グランド・コリーヌ・ジャポンの取組

- ・社長である大岡弘武さんは、有機無農薬栽培のブドウと天然酵母にこだわった「自然派ワイン」の醸造家。フランスでワインの醸造・販売を行っていたが、日本で「自然派ワイン」を広めるため2017年に帰国。
- ・ブドウ栽培に適した気候である岡山県に移住し、ブドウ栽培から醸造まで手がけるラ・グランド・コリーヌ・ジャポン(株)を設立した。ブドウ栽培のための園地は県庁から紹介された農地バンクに相談し、約2haの園地を借り受けた。
- ・農地バンクの現地駐在員がリタイア農家に働きかけ、まとまりのある遊休化した園地を確保することができた。自然に近い環境でワイン用のブドウを有機栽培し、高付加価値のワインを醸造・販売している。



【大岡弘武さん】



【ワイン醸造所】

農地バンク活用の効果

- ・ブドウ栽培用の園地の全て(約2ha)を農地バンクから借り受けている。
- ・地域の農地バンク駐在員の仲介によって、元々の園地の所有者である地域の住民と移住者である大岡さんの双方ともに安心感を持って園地の貸し借りをすることができた。
- ・借受地の中には所有者不明の園地も多くあったが、農地バンクを活用することによって、所有者の搜索等の事務手続をスムーズに行うことができた。

ワイン用ブドウ産地化に向けた今後の展望

岡山を自然派ワイン用ブドウの産地とするために、ワイン生産の輪を広げていきたいと考えており、現在は、ラ・グランド・コリーヌ・ジャポン(株)の元研修生2人が農地バンクを活用してワイン用ブドウの栽培を行っている。
今後も、農地バンクを活用してまとまった園地を確保してブドウ園地の整備を行うとともに、研修生の受け入れなどを通じて新規就農者の確保に繋げていきたい。

取組成果

- ・農地バンク活用実績2.1ha（R2現在）
- ・農地バンクを活用した研修生の新規就農2名



【遊休化していた木造ガラス温室の園地】



【リタイア農家から確保した露地栽培の園地】

農地バンクを活用して新規参入者へ技術継承 ～わさび産地を新たな担い手とともに活性化～

地域の状況

いわくにし にしきまち

山口県北東部にある岩国市錦町は、錦(にしき)川の清流と涼しい気候により良質のわさびが栽培されているが、近年は高齢化に伴う担い手不足から、生産量が激減し、産地の維持が困難な状況となっていた。



【バンカーズファーム】



【梅川さん】

キーパーソン梅川さんの取組

- ・(公財)やまぐち農林振興公社理事である梅川仁樹さんは、祖父から続くわさび農家である一方、地域では農業委員会会長として、日頃から、農業委員、農地利用最適化推進委員とともに、不在地主の農地・売却希望の農地・空き家などの情報を収集して集約・整理し、**新規就農者が農地バンクを活用する際は、出し手との橋渡し役として活動**。地元に関わり込んでもらうよう農家との顔つなぎにも手厚く配慮。
- ・わさび産地活性化のためには、「多様な担い手の確保と農地集積が喫緊の課題」と捉え、関係機関と連携して、地域に即した営農プランや就農支援の仕組みを構築し、実施している。
- ・産地の担い手として培った、超促成栽培による栽培技術(※)を、就農希望者に実技指導。就農後も、新規就農者の不安を解消するため、相談役として営農継続を支えている。
- ・令和2年4月には、地域銀行持ち株会社(山口FG)が出資して設立した(株)バンカーズファームから就農相談を受け、農地の確保と併せて、栽培技術・定住先確保の支援を行うとともに、同社と連携してわさびの市場ニーズを踏まえた営農の実現を目指している。

※: 加工用わさびの原料である畑わさびは、手作業に加え栽培期間が長いことから担い手不足を招き生産量が減少。梅川さんたち生産者も協力したコンソーシアムの研究により、栽培期間が大幅に短縮し、生産力向上や収益アップが見込める二毛作を可能にした。

取組の成果:

バンカーズファームの他に3年間で6名の就農を実現!!

(株)バンカーズファーム代表植木さんのお話

・山口FGから、地域農業の課題を解決する営農プランを作るよう、特命を受けた。市場動向を踏まえ、どの品目でどのように営農すれば、収益性を高めることが出来るか、地域活性化につながるかを検討。山口県のわさびは商材として優位性があると思っていたが、梅川さんの出会いがあったからこそ道筋を立てることが出来た。梅川さんは、わさびの栽培技術のみならず、マーケットについても知見を持っており、市場に出回る「加工用わさび」は、原料を外国産主体から国産のみに変えれば引き合いが強まるとの事。このため原料の生産力を高める必要があると分析。この観点から、我々が目指すマーケットイン型農業モデルの方向性と合致した。

・**就農の際は、梅川さんの協力もあって、ハウス建設が可能な農地を農地バンクを活用して確保出来た。**

わさびの栽培技術も分かりやすく教えてもらっている。我々は銀行員としての経験やネットワークがあるので、新しい発想と営業力で販路を開拓し、生産規模を拡大していきたい。

地域活性化の秘訣(梅川さん)

農地の利用調整だけでは、新規参入者が定着するのは難しい。**農地バンクをはじめとする地域の関係者**が空き家情報等を幅広く掴んで、共有することが大事。今後もバンカーズファームのような多様な担い手とともに、わさび産地の更なる活性化に取り組んでいきたい。

農地バンクとJAえひめ中央が連携した新規就農者の確保育成と機構事業の推進

取組のきっかけ

愛媛県は生産量全国一位を誇る柑橘王国で、JAえひめ中央管内の中予地区も柑橘栽培が盛ん。同地区の産地は急傾斜地にあり、日当たりと水はけが必要となる柑橘栽培には最適であるが、近年は高齢農家が営農をやめる要因となっていた。

そこで、**農地バンクとJAえひめ中央は、事業連携協定を締結し、新規就農者の確保と園地の遊休化を食い止めるべく、研修事業や農地を担い手へつなげる取組を実施。**



【写真：研修園場】



【写真：研修生】

取組の内容（JAえひめ中央）

- ・**遊休化が懸念される優良園地を農地バンクから借り受け**、県の就農支援策を活用して整備・改植し、新規就農者育成のための「新規就農研修センター」を設置（JA管内に6箇所）。
- ・指導員は、研修生が「産地の担い手」として独立できるよう、園場での実践演習に加え営農に必要な技術や知識、チームワークの大切さなどを幅広く丁寧指導。研修生の自主性を尊重するなど農業の楽しさが実感できるよう工夫。
- ・2年間の研修修了後、新規就農者が確実に就農できるよう、**条件の良い園地の掘り起こしに尽力。**

取組の内容（農地バンク）

- ・**意欲ある新規就農者を呼び込む**ため、農地バンクの推進活動のなかでJAの研修事業や県の就農支援策をPR。
- ・新規就農者の園地確保のため、**JAえひめ中央や農業委員会との連携を密にして、貸出希望の情報を幅広く収集。**
- ・遊休化が懸念される優良園地や**新規就農者に見合う園地を借り受け、JAと調整しながら担い手へ集積。**

バックアップ（農業委員、県）

- ・農業委員会は、機構への架け橋として**農地バンク事業の相談窓口**を担うとともに円滑な利用調整に協力。
- ・農業委員は、地元の事情に精通していることや農家との信頼関係を活かして、**機構事業の活用を促すとともに地主と新規就農者の結びつけに協力。**
- ・県は、「JA等における新たな担い手対策」として**農地バンクの活用を踏まえた単独事業を創設。**

研修生の声

「経営品目や就農地を踏まえて園場を選択できることや研修メニューの充実的魅力を感じて県外から応募した。修了後は優良農地で頑張りたい。」
「収益性のある栽培技術を学ぶことが楽しく実践研修の重労働も苦にならない。就農後は順々に規模拡大していきたい。」
「地域へ溶け込めるよう研修日以外もアルバイトなどで地元農家と交流している。農業はやり方次第で高収入を得られると思う。」
「この研修園場では、収穫というゴールまでの過程を変えても同じ結果になるかなどを研究できるので面白い。農業は奥が深いと感じている。」

取り組みの成果（研修事業の実績）

受入状況

H25,26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
3	7	13	11	15	13	14	76

就農状況

H25,26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
-	1	5	12	7	19	11	55

